



松林小だより

令和7年7月18日

第5号

茅ヶ崎市立松林小学校 校長 下反 達二



夏休み、「なぜ」を探しませんか？

「なぜ」

川崎 洋

なぜ 風は
新しい割ばしのように かおるのだろう
なぜ 鳥は 空を滑れるのだろう
なぜ 夏蜜柑は 酸っぱいのだろう
なぜ 海は 色を変えるのだろう
なぜ たった一人の人を愛するようになるのだろう
なぜ 涙は 嬉しいときにも出るのだろう
なぜ フリュートは あんなに遠くまでびびくのだろう
なぜ 人は けわしい顔をするのだろう
なぜ ギターの弦は
5本でなく7本でなく6本なのだろう

なぜ
なぜ
なぜ

そして 人は なぜ
いつの頃からか
なぜを言わなくなるのだろう



川崎洋さんの詩「なぜ」は、日常にあふれるささやかな現象や感情、そして人間の根源的な疑問を、率直な言葉でつづっています。一見すると素朴な「なぜ？」の連なりなのですが、その問いかけの奥には、世界の不思議さや人間の深さ、そして生きる意味が静かに浮かび上がります。

この詩が伝える大きなテーマは、「世界の不思議に目を向けることの大切さ」と「疑問を持ち続けることの尊さ」です。「なぜ？」という問いは、知識や常識よりも前にある、世界そのものへの素直な驚きや関心です。大人になると、こうした問いを口にしなくなることが多いのですが、本当は「なぜ？」を考え続けることで、私たちは世界を新鮮なまなざしで見続けることができるのだと語りかけています。

明日からの夏休み、子どもたちも大人も、「なぜ」

素直な疑問や新鮮な驚きを大切にしてお過ごしみるのもいいのではないのでしょうか？

笑顔であいさつ

6月30日からの1週間、本校では恒例になっている6年運営委員によるあいさつ運動が行われました。さらに、この取組を見た4年生のあるクラスが自分たちもあいさつ運動をやりたいということで、運営委員のサポートを受けながら、自主的な取組として引き継いでいました。とても尊いことだと思います。こういった子どもたちによる取組が、ここここに広がっていくと、もっともっと楽しい元気な学校になると思いました。素敵ですね。

「人間関係は、まず挨拶から始まる」と言われるように、挨拶は人と人との距離を一瞬で縮める力を持っています。アメリカの随筆家であるラルフ・ワルド・エマーソンは「あなたが出会うすべての人に心からの挨拶をしなさい。それだけで世界は変わります」と語りました。エマーソンの言葉の通り、挨拶は相手の存在を認めるサインであり、「あなたを大切に思っています」という無言のメッセージとなります。心理学の研究でも、挨拶を交わすことで互いの警戒心が和らぎ、信頼感や安心感が生まれることが示されています。特に、笑顔を伴う挨拶は、脳内の「幸せホルモン」と呼ばれるセロトニンやオキシトシンの分泌を促し、自分自身も相手も前向きな気持ちにさせてくれるといえます。私も、子どもたちを見習って、一日の始まりに、誰かとすれ違う瞬間に、まずは自分から心を込めて挨拶してみようと思います。

個人面談ありがとうございました

保護者の皆様にはお忙しい中、個人面談にいらしていただきありがとうございました。学校でのお子様の様子やご家庭での様子を共有し、今後のお子様の成長につながっていくことを願っております。

明日から子どもたちが待ちに待った夏休みスタートです。充実した良い休みとなるよう祈っております。